

2015年度学校自己評価(中学・高等学校)報告(最終)

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2015年度に実施した「学校自己評価」の内容をご報告いたします。

(1) 報告までの概要

学校自己評価委員会を設置し、前年度の結果をふまえて内容の再検討を行い、「学校自己評価アンケート」を作成した。調査対象は中学校・高等学校の教職員(非常勤講師は除く)とし、2月に実施、3月に集計、4月に学校関係者評価を行い、5月に理事会に報告した。

(2) 評価項目と評価方法

I: 評価項目

学校運営、教育内容、生徒指導・支援、教員研修・資質向上の4つの項目に分類し、それぞれについての評価の観点を設けて実施した。

II: 評価方法

4段階の評価を行った。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる
C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

(3) 重点テーマと重点目標

I: 長期的重点テーマ

信じ合い、愛し合う心をみんなのために

II: 2015年度の重点テーマ

命を育む者にとって、己を信じ、他者を信ずること、己を正しく愛し、他者を正しく愛することは、命を育むものの基本でありながら、また到達点でもある。その具体的な手段として、挨拶を通して互いの人間としての尊厳を認め合い、静かな黙想の時間を通して、一人の存在としての自己の尊厳についても確かめる機会を持つようにする。

III: 重点テーマの評価と課題

本校は「命を育む女子教育」をテーマに女子の教育を目指している。2015年度の重点目標である1、挨拶運動は、生徒会が中心になり、通用門に立ち、挨拶運動を率先して行った。そして生徒会が6項目にわたってアンケートを作成し、それを5点満点に点数化した結果、その平均は3.2であった。その平均値が4点の後半になるようにさらに強化していく。2、黙想(瞑想)をする時間を5限目のはじめの5分間に設定した。当初は全然できていなかったが、2学期の終わりに近づく60%の生徒は形としてはできるようになった。さらに3学期の初めに黙想についての効用について説明した。しかし、まだ理想の形ではなく、この後とも黙想については、徹底して進めていきたいと思っている。

(4) 項目別評価と課題

I : 学校運営: 私学の独自性

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
1	建学の精神について 建学の精神が教職員、生徒・保護者など、学校関係者などによく浸透している	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	85.7%	83.1%
2	愛校心について 在校生、卒業生は学校に誇りや愛着を持っている	14.3%	66.1%	17.9%	1.8%	80.4%	81.0%
3	カトリックの教えに基づく教育 宗教に基づく教育に対する生徒・保護者の理解がある	25.0%	67.9%	7.1%	0.0%	92.9%	86.2%
4	家庭との連携 学校に対する保護者の期待・要望を把握している	1.8%	51.8%	39.3%	7.1%	53.6%	65.5%

- <1> 建学の精神がよく浸透していると評価している。今後も高い評価が得られるよう、種々の機会を通じ啓発していきたい。
- <2> やや評価が低くなっているが、多くのものが高い愛校心をもっていると判断している。伝統ある本学の校風を維持し、在校生・卒業生・保護者から愛される学校づくりを目指したい。
- <3> カトリックの教えに基づく教育を行うことを、明らかにしていることもあり、内外に理解されている。
- <4> 非常に下がってしまったが、1月に保護者アンケートをおこなったので、その結果を分析し次年度に生かしたい。

I : 学校運営: 教科課程

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
5	教育計画について 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	55.4%	35.7%	8.9%	0.0%	91.1%	89.7%
6	教育課程の見直し コース・類型に応じた見直しを行っている	19.6%	46.4%	30.4%	3.6%	66.1%	81.0%

- <5> 年間を通じた教科計画は順調に実施されており。次年度も継続していきたい。
- <6> 教育課程見直しの会議は行っているが、改定にまでは至っていない。次年度は会議の回数を増やし、よりよいものにしていきたい。

I : 学校運営: 教員間連携

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
7	教員・教科間連携状況 教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている	7.1%	60.7%	28.6%	3.6%	67.9%	70.7%
8	会議の有効性 会議の内容の精選と検討事項の事前での伝達を行っている	5.4%	32.1%	51.8%	10.7%	37.5%	48.3%

- <7> 昨年度より随分下がっており、来年度は定期的に教科会議を行い、改善に努めたい。
- <8> 会議の議題申込用紙の活用によってより有効な会議の進行や簡略化を目指したが、現実にはあまり実行できなかった。次年度に向けては、特に職員協議会の質を高めるための検討を行う。

I : 学校運営: 財務関係

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
9	財務に関する意識と財務状況 学校の経営指標と財務状況について理解し、予算・決算の状況について把握している	12.5%	46.4%	32.1%	8.9%	58.9%	70.7%

<9> 年度初めに財務に関する一覧が配布されるが、理解度は高くない結果となっている。来年度は学院の部署別の財務資料を配布することによって、より理解を深めてもらう。

I : 学校運営: 情報公開

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
10	ホームページの活用状況 学校のホームページで可能な範囲の情報公開をしている	32.1%	51.8%	14.3%	1.8%	83.9%	82.8%
11	授業公開状況 保護者などへ授業を公開している	51.8%	46.4%	1.8%	0.0%	98.2%	100.0%

<10> 情報公開は当然のことであるが、スピーディであるかについては、問題があり改善しなければならない。

<11> 1週間の期間を設けて授業公開を行っていることが高い評価に繋がっている。

I : 学校運営: 危機管理

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
12	役割分担について 事故・事件・災害等に対処する役割分担や、備蓄・設備の状況を把握している	18.2%	70.9%	10.9%	0.0%	89.1%	79.3%
13	危機管理対応状況 危機管理マニュアル、警察・消防との連携、訓練などの安全対策は十分にとられている	23.6%	58.2%	16.4%	1.8%	81.8%	70.7%

<12> 非常時における役割分担などは年度初めに示していることが、高い評価に繋がった。

<13> マニュアル作成はもとより、中間報告のあとではあったが、避難訓練を行ったので評価が高くなったようである。また学院の危機管理マニュアルも作成され、より体制が整ったと判断している。

I : 学校運営: 開かれた学校づくり

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
14	地域交流について 地域住民との交流が行われ、地域行事への参加が盛んである	5.4%	51.8%	37.5%	5.4%	57.1%	56.9%

<14> 地域交流についての評価は低いが、部活などのグループが地域の行事に活発に参加しているので、もっとインフォメーションに努めたい。

I : 学校運営: 広報活動

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
15	校内説明会 説明会参加者に好印象を与えるような企画・運営をしている	21.4%	57.1%	19.6%	1.8%	78.6%	82.8%
16	中学校・塾訪問 中学校・塾への訪問が十分であり、新規開拓にも努めている	3.6%	42.9%	33.9%	19.6%	46.4%	53.4%
17	データの共有 各分野の分担を適正に行い、データを正確に処理し活用している	5.4%	37.5%	53.6%	3.6%	42.9%	50.0%

<15> 中間報告より評価が下がっている。これは例年と変わらない実施であったからと思われるので、来年度は中学校・高等学校の説明会を別に行い、より特徴を出していきたい。また説明会も同時に実施する。

<16> 評価が随分低いが、入学者に対し通っていた塾のアンケートなどを参考に対策を検討する。

<17> データの共有を図るために、訪問記録の開示を行ったが、閲覧頻度が低かったようである。来年度は注意喚起を行い、共有を図るようにする。

I : 学校運営: カトリック教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
18	心の教育 朝礼・終礼の実施、宗教行事、宗教の授業を通して心の教育を行っている	37.5%	60.7%	1.8%	0.0%	98.2%	96.6%

<18> 本校の特色のひとつであり、この点については十分な評価である。また設問の仕方についての指摘があり、来年度は「朝終礼、授業、行事、生活指導など、学校生活の全ての場面でカトリック校としての心の教育がなされている。」という表現に変更する。

I : 学校運営: 人権教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
19	研究体制 人権教育に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある	5.4%	50.0%	39.3%	5.4%	55.4%	70.7%
20	教育体制 人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で意識を高める教育を行っている	10.7%	62.5%	26.8%	0.0%	73.2%	77.6%
21	いじめ防止対策 生徒の日常の変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている	42.9%	53.6%	3.6%	0.0%	96.4%	93.1%
22	障がい者対策 障がい者に対する支援を行っている	19.6%	66.1%	14.3%	0.0%	85.7%	82.8%

<19> 研究体制の評価が非常に低くなっている。人権教育に関する研究は非常に重要なことと捉えており、定期的に研修会を実施しているが、不十分であるという判断であった。来年度は研究会に参加した人の報告会を実施することにより改善したい。

<20> 毎学期人権教育に関する学習を行っているが、これまでとは違う形のアプローチをすることが必要である。

<21> いじめ問題については、発見と防止に力を注いでいる。この問題はなくなることはないという視点で、今後も継続していきたい。

<22> 障害者を受け入れるということを前提に、教育活動を行っていることが高い評価であったと受け止めている。

II:教育内容:情報教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
23	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている	7.1%	60.7%	32.1%	0.0%	67.9%	86.2%
24	情報のモラル育成	情報の発信に伴う責任など、情報のモラル向上のための教育を行っている	12.5%	67.9%	19.6%	0.0%	80.4%	87.9%

<23> 情報能力育成のための環境を整えることが不足している。

<24> 警察に來校していただきスマートフォンに関わる問題についての講演などを行った結果の評価である。次年度も継続していきたい。

II:教育内容:環境教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
25	環境問題意識向上	ゴミ・リサイクル・省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている	5.4%	55.4%	37.5%	1.8%	60.7%	70.7%
26	実践的態度の育成	生徒に清掃・校内美化に取り組ませている。また施設・設備を大切にする心を育成している	37.5%	58.9%	3.6%	0.0%	96.4%	98.3%

<25> 環境問題の意識向上のための教育は不足している。LHRなどで取り上げ、もっと向上させていく。

<26> 十分な評価を得ており、今後も継続していく。

II:教育内容:教科指導

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
27	理解度の把握	個々の生徒の学力理解度を把握し、それに応じた指導ができています	14.3%	66.1%	17.9%	1.8%	80.4%	89.7%
28	能力の伸長	コース別・少人数授業など、個々の生徒の能力を伸ばすための体制ができています	25.0%	58.9%	16.1%	0.0%	83.9%	84.5%
29	教育機器の利用	教育機器を十分に活用している	17.9%	51.8%	28.6%	1.8%	69.6%	81.0%
30	模試などの分析活用	模試結果を共有し、学力向上に役立たせている	16.1%	58.9%	23.2%	1.8%	75.0%	82.8%

<27> 少人数であっても学力差が大きく、指導が困難な部分もあるが、これからも個々の学力の把握に努める。

<28> 評価は高いが、あまりに少人数クラスが多いのは問題もあるので、今後検討する。

<29> 故障していたり、老朽化しているものの管理が不十分であった。また積極的に機器を使用するように啓発する。

<30> 学年による差をなくし、進路に繋がるように分析を進め、結果の共有をもっと図らなければならない。

II:教育内容:キャリア教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
31	キャリア教育の推進	高校1年生では全般に、2年生からはコース設定にも組織的・系統的にキャリア教育を取り入れている	23.6%	69.1%	7.3%	0.0%	92.7%	98.3%

<31> 高校1年生から組織的に入れており評価は高い。

II:教育内容:学校行事

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
32	スポーツ活動	体育大会・球技大会などのスポーツに関する学校行事は盛んである	51.8%	42.9%	5.4%	0.0%	94.6%	89.7%
33	文化・芸術活動	文化祭、観劇会などの芸術鑑賞、自然体験学習や修学旅行などの行事は十分に行われている	60.7%	35.7%	3.6%	0.0%	96.4%	93.1%

<32> スポーツ活動は計画的に入れており充分である。

<33> 文化・芸術活動は3年間の計画の中で実施しており充分である。

II:教育内容:国際教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
34	国際理解の推進	修学旅行や海外研修なども含め、他国の歴史の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を行っている	42.9%	51.8%	5.4%	0.0%	94.6%	89.7%

<34> オーストラリアのラザホール高校との姉妹校提携が20周年を迎え、例年より来校生が増加したことなどが高い評価の要素と考えられる。

II:教育内容:特別活動

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
35	部活動	部活動は活発である	57.1%	37.5%	5.4%	0.0%	94.6%	96.6%
36	生徒会活動	生徒会活動や委員会活動を通して、生徒が主体的に活動できる体制が整っている	21.4%	66.1%	12.5%	0.0%	87.5%	77.6%

<35> 生徒の70%が部活動に入部しており、積極的な活動である。

<36> 規約の変更、挨拶運動、ボランティア活動などに、生徒会が率先して動いたことが高い評価となった。

II:教育内容:その他

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
37	読書推進 図書館の利用促進による読書指導に取り組んでいる	8.9%	55.4%	32.1%	3.6%	64.3%	55.2%
38	ボランティア 東北などの被災地支援を行い、困難に遭っている人々への関心を持ち、チャリティなどを含めたボランティア活動を積極的に行っている	41.1%	55.4%	1.8%	1.8%	96.4%	96.6%

<37> 定期的に「図書館便り」が発行され、読書の推進に努めているが、一部の生徒たちに限られる傾向があり、全体としての取り組みになっていない。次年度は図書館との連携をさらに進める必要がある。

<38> 東北への被災地訪問などの活動や、街頭での共同募金といった直接的行動や、種々の募金活動などを積極的に行っている。

III:生徒指導・支援:生徒指導

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
39	指導方針の一貫性と生活指導 学校の生徒指導は一貫した方針を持っており、かつ個々の生徒の状況に応じた生活指導が組織的に行われている	17.9%	66.1%	14.3%	1.8%	83.9%	94.8%

<39> 組織的に実施されており評価は高い。

III:生徒指導・支援:生徒支援

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
40	生徒会活動 生徒会活動・委員会活動を通して生徒が主体的に活動できるよう支援している	16.1%	71.4%	12.5%	0.0%	87.5%	77.6%
41	学習指導について 個々の生徒の実態に合わせた学習支援の方法の工夫・改善を行っている	12.5%	64.3%	17.9%	5.4%	76.8%	87.9%
42	進路指導について 生徒一人ひとりの興味・関心・適正に応じた進路選択ができるような支援体制がある	10.7%	60.7%	26.8%	1.8%	71.4%	87.9%
43		併設短大との連携体制が整い、適切な進路指導が行われている	18.2%	65.5%	16.4%	0.0%	83.6%
44	保健・衛生 体調不良・怪我等への対応は適切である	45.5%	49.1%	5.5%	0.0%	94.5%	96.6%
45		保健室の機能は十分に果たされている	34.5%	54.5%	10.9%	0.0%	89.1%

<41> 中間報告から大きく下がっているのは問題がある。要因を究明し次年度に繋げていきたい。

<42> 中間報告より大きく下がったのは、コースの組み換えが行われ、今までより選択肢が少なくなったことが原因と思われる。しかし、現状の生徒数ではある程度仕方のない部分でもある。

<43> 併設短大とはできるだけ連携を取るようしており、看護やピアノなどの直接指導も行っている。

<44・45> 学院の保健センターが中心となって日頃の対応を行っており、適切に行われている。

IV: 教員研修・資質向上: 教員研修

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目		A	B	C	D	2015年度 年度末 (A+B)	2015年度 中間 (A+B)
46	教員の資質向上について	教員間で授業内容を評価し、意見の交換などを行う機会がある	7.3%	58.2%	30.9%	3.6%	65.5%	69.0%
47	校内研修	身近なテーマの研修計画を立て、効果的な研修を行っている	7.3%	38.2%	47.3%	7.3%	45.5%	60.3%
48	初任者のサポート状況	初任者等、経験の少ない教員をサポートする体制がある	0.0%	25.9%	53.7%	20.4%	25.9%	38.6%
49	校外研修	教員が校外研修に参加できる体制が整っている	0.0%	38.9%	40.7%	20.4%	38.9%	60.3%
50	研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、教員間で共有する体制がある	0.0%	29.6%	57.4%	13.0%	29.6%	37.9%
51	接遇	事務室の保護者や来校者に対する対応が適切である	7.4%	64.8%	20.4%	7.4%	72.2%	73.7%

- <46> 中間報告では、3学期に教科の枠を越えて観察授業を行うとしたが、呼びかけだけでは実行が伴わなかった。次年度は観察授業の義務化を図り、確実に実行したい。
- <47> 教員研修の計画が不十分であり、一部予定していた計画も実行できなかった。次年度は年間の予定通りに実施できるように努めたい。
- <48> 新任や新担任がいなかったので実施しなかった。次年度は新任がいるので計画的に実施していく。
- <49> 校外研修に参加するためには自己負担もあり、低調であった。次年度は予算の配分があり、積極的に参加してもらえる環境の整備が少し進む。
- <50> 閲覧可能にしたが、利用が少なく、回覧を行っても共有までには至っていない。次年はもっと教科会議を活用したい。